

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書

2010年11月1日提出

申請年度	2010年度 (平成22年度)		
所属学科	現代社会学科	報告者・職氏名	講師 小林 大 祐
海外出張内容 (種別に)	目的	フィンランドのレイキモッキ (Leikkimökki) 研究およびアール・ヌーボー様式アパートメントハウスの都市史的研究のため、ヘルシンキ、ブリュッセル、パリの現地調査と資料収集を行う。	
	訪問国・地域	フィンランド、ベルギー、フランス	
	助成額	300,000 円	
期 間	2010年8月9日(月) ~2010年9月5日(日)		28泊29日
上記出張期間 の研究・調査 等活動経過	8月9日・・・関空発、パリ着		
	8月10日~11日・・・パリ調査		
	8月12日・・・ブリュッセルへ移動、調査		
	8月13日~18日・・・ブリュッセル調査		
	8月19日・・・アントワープへ移動、調査		
	8月20日~22日・・・アントワープ調査		
	8月23日・・・パリへ移動、調査		
	8月24日・・・パリ調査		
	8月25日・・・フィンランド・セイナヨキへ移動		
	8月26日~31日・・・セイナヨキ周辺調査		
	9月1日・・・セイナヨキ市役所でヒアリングと打合せ		
	9月2日・・・ユバスキュラ調査		
	9月3日・・・ヘルシンキへ移動、調査		
	9月4日・・・ヘルシンキ調査、日本へ(機中泊)		
9月5日・・・関空着			
研究・調査 発表等概要	・セイナヨキおよびユバスキュラのレイキモッキ現地調査		
	・ヘルシンキのカタヤノッカ地区調査		
	・ブリュッセルおよびアントワープの世紀末建築と20世紀初頭の都市拡張プロセスおよびアパートメントハウス調査		
	・パリにおける世紀末建築と20世紀初頭のアール・ヌーボー様式建築の現地調査		
研究・調査 発表等々の 成果の概要	<input type="checkbox"/> ヘルシンキのカタヤノッカ地区でナショナルロマンティック様式のアパートの補足調査、19世紀末建築の刑務所をホテルに転用・活用した事例を調査できた。		
	<input type="checkbox"/> オランダからの独立運動の中で近代を迎えたベルギーで誕生しアール・ヌーボー様式建築のうち、V.オルタ以外の作品も調査できた。また、フランス語圏のブリュッセルとドイツ語圏のアントワープで展開の違いを調査できた。		
	<input type="checkbox"/> 1900年のパリ万国博覧会后、ハンガリー・ナショナルロマンティックの影響を受けたマジャール様式のアパートメントハウスを発見できた。		
研究・調査 等の成果 発表予定	シンポジウム・公開講演会等の開催： ・大久保セミナー Café『世界遺産への旅』第19回「ベルギーの世界遺産とアール・ヌーボー建築」、2010年12月21日、ぶんきょうサテキャン大久保		